

共通

全般	計画	土づくり	苗づくり	植付け	初期	中期	後期	収穫	調製	出荷

農薬の適正使用

規範項目23

必須・重要・推奨

安

環

農薬と他の防除手段を組み合わせた防除

化学農薬は、病虫害や雑草の防除に速効性があり、適正に使用する上では安全なものです。化学農薬に依存しすぎることは、生態系の攪乱や農薬への耐性を強める可能性もあります。

化学農薬だけでなく、必要に応じて他の防除手段を適切に組み合わせて、効果的・効率的な防除を行うようにすることが重要です。

取組事項

- ・ 化学農薬だけでなく、他の防除手段も組み合わせた防除を行う。
- ・ 病虫害や雑草が、化学農薬への耐性を強めないように、同一の農薬の連用は避ける。

病虫害や雑草を経済的な被害を及ぼすレベル以下に抑えるための防除の方法としては、化学農薬がもっとも一般的ですが、頼りすぎて乱用すると、天敵などの生物相を貧困化させ、逆に防除前より害虫が増加したり、農薬に耐性のある病虫害や雑草が発生するなどの弊害も懸念されます。

薬剤の感受性低下を防ぐためには、農業の作用機構分類を確認し、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布することが重要です。

また、化学農薬以外にも、袋がけなどによる侵入防止や、誘蛾灯などによる誘引・捕殺など、昔から行われてきた技術があり、さらに新たな方法も開発されています。このことから、化学農薬単独の防除方法に頼らず、多様な防除手段の中から、適切な方法を選択することが必要です。

【生物的防除】

- (1) 天敵の散布、天敵が生存しやすい環境の整備
- (2) 生物農薬等の使用（図1）
- (3) 除草用動物（アイガモ等）の利用

【化学的防除】

- (1) 性フェロモン剤による害虫の交信攪乱・誘殺（図2）
- (2) 非散布型農薬（クロピクテープ等）の使用

【物理的防除】

- (1) 除草用機械の利用（図3）
- (2) ベたがけ栽培、雨よけ栽培、トンネル栽培などの病虫害の予防
- (3) 太陽熱や熱水を利用した土壌中の病虫害・雑草種子の防除
- (4) 寒冷紗、防虫ネット、袋がけ等による害虫の侵入防止（図4）
- (5) 遮光性が高いマルチ栽培による雑草の抑制技術（図5）
- (6) 黄色灯によるヤガ類の侵入・産卵の抑制（図6）

■ 生物的防除の事例



図1 イチゴにおける天敵資材の導入
注) チリカブリダニはバーミキュライト等と混和された状態で散布される

■ 化学的防除の事例

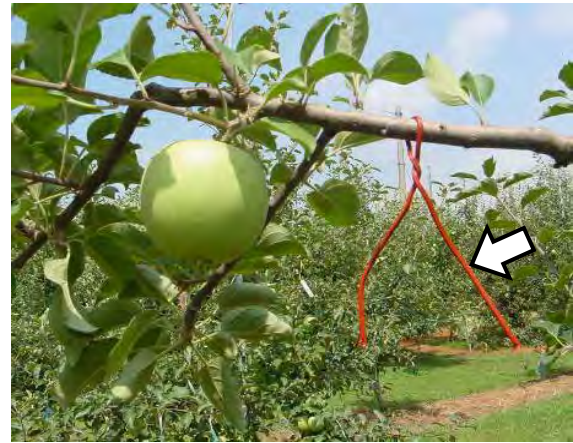


図2 リンゴにおけるフェロモン剤設置

■ 物理的防除の事例



図3 乗用水田用除草機による雑草防除



図4 防虫ネットの設置による、アブラムシ類等の侵入防止



図5 にはらにおけるグラウンドシートとシルバーポリフィルムによる雑草防除

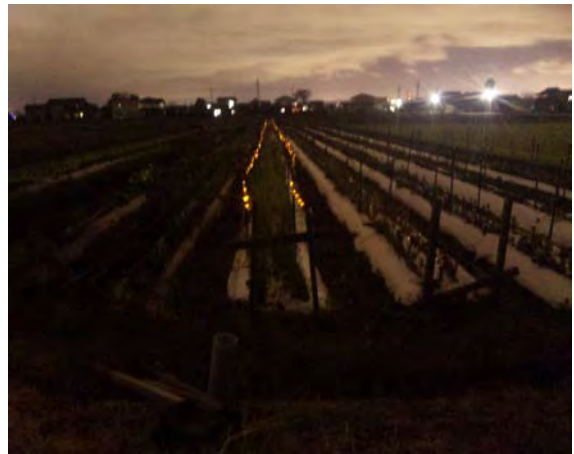


図6 小菊ほ場での黄色灯によるヤガ類の侵入・産卵抑制

出典: NPO法人 農業ナビゲーション研究所「GAP取組支援データベース」(図1の一部)

【根拠法令等】

- 環境と調和のとれた農業生産活動規範について (平成16年度農林水産省通知)
- 総合的病害虫・雑草管理(IPM)実践指針 (平成17年度農林水産省公表)